

協 同

小山展弘後援会報
平成 30 年
4 月 10 日号

<編集・発行>
小山展弘後援会
〒438-0078
磐田市中央 656-1
TEL ; 0538-39-1234
FAX ; 0538-39-1235

今後の農政の動向とお茶の振興について

○今後の農政の動向、お茶の振興について

国際貿易交渉について、トランプ大統領が

氏に訊く

TPPの再交渉を指示したとの報道が流れています。TPPの再交渉はあり得ないと思っ
ています。TPP特別委員会での審議でも安
倍総理や石原担当大臣は、どこか一つの事
柄について再交渉を行い、変更が加えられ
ば、他の全てが崩れるガラス細工のようにな
っている、再交渉はありえない、と答弁して
きました。トランプ大統領はよりアメリカに
有利になるように再交渉することを意図し
ているようですが、安倍総理はこのような再
交渉の要求を毅然と断るべきです。ちなみ
に、2012年の総選挙の際に、安倍総理を
はじめ自民党は「TPP反対」を唱えていたこ
とを思い起こせば、再交渉は言語道断であ
り、このままTPPは復活させるべきではない
と思います。なお、大統領貿易促進権限(T
PA)が6月末で期限が切れるため、大きな
動きはできないとの見方もあります。

日・EU EPAは、TPPと異なり、企業が
政府を訴えるISD条項はないものの、北海
道などチーズ・酪農には大きな影響が出ま
す。臨時国会以降になると思われますが、

コメについては、29年産米の価格が堅調に推移しており、生産目標の設定
も行政がやらない代わりに「全国農業再生推進機構」と各都道府県農業再
生協議会により、実質的に生産調整が実施される見通しであり、直近で悪
影響が出てくることはなさそうです。

○お茶について

今年のお茶については、2015年と同様に平均よりも1週間ほど早い始ま
りとなりました。2015年が収量が少なく、価格も上がらなかったことか
ら心配する声も聞かれます。しかし、早い摘採はそれだけ吟味の時間が生
産者にも茶商にもあるということであり、品質が良いお茶が生産され、少
しも高値となることを期待したいと思います。

生産者サイドでは碾茶生産・有機生産などの工夫により、茶商再度では
ブレンドの工夫により、差別化された商品を創り出す余地はあると思われ
ます。また、ブレンドを行えば、GAPの取得の必要も生産者側にも求めら
れるかもしれません。また、広域茶市場の機能強化も求められます。

政府は、有機栽培のための改植支援や碾茶栽培(抹茶生産)の促進のた
め、新たに1反あたり10万円の支援策を打ち出しました。抹茶や有機製
品は、世界的にも需要が高く、かつ、静岡県内においては、現在、取組が少
ないことから、今後、大きな「のびしろ」があるものと思われれます。どちら
も生産者にとっては、軌道に乗るまでは大変ですが、だからこそ一層の政府や
県行政の支援が必要であると思います。また、これらに加えて生産調整的
な政策、品目転換支援等も含めていくべきだと思います。

県内の茶業は苦境がずっと続いています。これ以上、苦しくなれば、廃業
者がさらに増え、農地の荒廃、多面的機能の低下にもつながりかねません。
生産者の汗と苦労が報われる政策が求められていると思います。

前衆議院議員 小山展弘

～ 協同・連帯 共生・安心～

前衆議院議員

小山のぶひろ

